

平成26年度 第1回千葉市立博物館協議会議事録

1 日 時 : 平成26年10月16日(木) 午後2時00分～午後3時30分

2 場 所 : 千葉市立郷土博物館 1階講座室

3 出席者 : (委員) 委員長他 5人出席 (10人中6人)

委員長 西川 明

副委員長 青木 繁夫

委員 小松 美智子、篠原 朋子

西本 豊弘、 原田 克己

(事務局)

生涯学習部長 朝生 智明

生涯学習振興課 志保澤 剛(文化財保護室長代理)

加曽利貝塚博物館 飛田 正美、林 利浩、石橋 一恵、塚本 充彦

郷土博物館 湯浅 忍、田中 信治郎、芦田 伸一、増田 芳弘

4 議 題

(1) 平成26年度博物館事業について

ア 加曽利貝塚博物館

イ 郷土博物館

(2) その他

5 議事の概要

(1) 平成26年度博物館事業について

ア 加曽利貝塚博物館の「平成26年度の博物館事業について」事業ごとに説明し、委員より意見を受ける。

イ 郷土博物館の「平成26年度の博物館事業について」事業ごとに説明し、委員より意見を受ける。

(2) その他

特になし。

6 会議経過

午後2時00分 委員10人中6人着席

(久留島委員、池田委員、田中委員、佐藤委員は欠席。)

田中郷土博物館副館長の司会進行により、初めに湯浅郷土博物館館長より、新しい委員、職員の紹介、朝生生涯学習部長の挨拶、西川委員長の挨拶の後、会議資料の確認、及び千葉市立博物館協議会運営規則第3条の規定により、この会議が成立していることを告げた。

また、本協議会は千葉市情報公開条例25条に基づき会議を公開していることを告げ、以後、西川委員長を議長として、会議が進行した。

議事（１） 平成２６年度博物館事業について

< 説 明 >

西川委員長 それでは、議事に入りたいと思います。

まず、議題１の平成２６年度の博物館事業について、加曽利貝塚博物館、郷土博物館の順でご説明をお願いいたします。

初めに飛田館長お願いします。

飛田館長 はじめに、加曽利貝塚博物館における平成２６年度の事業（維持管理事業・資料収集事業・調査研究事業・展示事業・教育普及事業・博物館整備事業）について説明。

湯浅館長 郷土博物館における平成２６年度の事業（維持管理事業・資料収集保管事業・調査研究事業・展示事業・教育普及事業・市史編さん事業）について説明する。

西川委員長 事務局より説明がありましたが、ご質問、ご意見等ございますか。

併せて、来年度に向けての要望などがあればお願いします。はじめに加曽利貝塚博物館について何かご質問ご意見あれば

篠原委員 先ほどのご説明の中で出てくると思ったのですが、取りやめの方針に伴う金額について教えて下さい。

飛田館長 今回、耐震補強工事を実施する予定であった予算額が、１億３千万円でございます。また、リニューアルの実施設計 １千３百万円この部分が今回実施しないことになっております。

休館中に老朽化している電気工事ですとか、空調施設、玄関の傷んでいるところで約１千万円位の工事をいたします。それを今、見積りを取って工事を進める方向で進んでおります。金額は約１千万円でございます。

原田委員 昨年度までは、教育普及事業の中に考古学講座、郷土史講座、学生を対象とした職場体験の受け入れがあったと思うのですが、今年度はどうして無くなってしまったのでしょうか。

飛田館長 今年度につきましては、博物館実習が夏場１名を受け入れております。あと１月を目途に考古学講座を開いていこうかと、当初は事務所を２階に持って行ってしまうので出来ないと思いましたが、実際の工事で事務所がそのまま使えることとなりましたので、新たにですが、時期は変わりますが講座は１月に講師を招聘して実施していこうと思っております。

原田委員 で、あれば、この中身に盛り込んだ方がよろしいのかなと思います。

西川委員長 二つのご意見がでました。よろしいですか。

原田委員 もう一ついいですか。

先ほど朝生部長さんの話にもございましたけれども、市民が市の歴史について興味を持って、愛着を持つということを考えてみたときに、予算も人も少ない時に大

変だとは思いますが、極力事業の中に膨らみを持たせた方がいいのかなという感じがするんですね。

と言うのは、例えば土器を作るだとか、火をおこすとか、市民が作ったもの、それを利用してさらにまた何かをやっていく、起した火を使って、例えば、今のお子さんたちって火を起こした経験がないと思うんですよ、ですので、薪を自分たちで集めさせるとか、それを割って、火を起こして、その火をもって土器で何かを煮沸して、何かを食べてもらうとか、そのような経験をするより良い思い出が残るのかなと気がするんです。

また、サバイバルの体験そういったものに繋がるのかなと言う気がするんですが、例えば食材などにしましても、私たちの子どものころは、縄文時代というのは、どんぐりとか、貝塚になるような貝を採取して、それを食べていた。

その程度の知識しかないですよ。ところが、今は、いろいろの遺跡が発掘されて、縄文時代は、もっと色々なものが食べられていた、豊かな食生活があったんだ。ということが、段々わかって来ましたよね。私たちが習った当時の縄文時代と比べて格段に、色々なことが分かってきましたよね、

そのようなことを、一緒に勉強して貰いながら体系化していく、そういうものを合わせてやっていただければ、市民の興味を誘うことになって行くのではないかと考えてます。あるいは社会勉強、社会学習、生涯教育、そういった意味においても、有意義なものに繋がっていくのではないかと考えるんですが。

飛田館長

ありがとうございます。原田委員から大変、貴重なご意見を頂きまして、本当にまさにそうだと。我々が学生時代に習ってきた、そういう縄文時代と大きく違って、委員のおっしゃったように縄文感も大きく変わりつつある、まさに加曽利貝塚が特別史跡の指定を頂くために、そのところを大きく加曽利貝塚を中心に出していく必要があると思っております。

体験的な学習についてですが、自分たちで火を起こして、黒曜石を使って肉を切り、そして縄文の土器を使って、煮炊きをする、という体験を、これから約4クラス桜木小学校でございますが実施いたします。

また、土器づくりの時、大人の土器づくりが2回ございまして、子どもの土器づくりが1回ございますけど、この中でも最初の土器焼の日には、縄文の土器を使った、煮炊きを行っております。

また、夏に盤洲干潟、木更津の先、ちょうど「海ほたる」の見えるところがございますが、そこに行つての「イボキサゴ」の採取を行つてきました。

昨年度でしたが日本の料理が世界遺産に指定されておりますので、我々も食べられるか、わからなかった「イボキサゴ」ですが、貝塚の7割から8割を占める「イボキサゴ」ですが、それを取りに行つて、調理をして食べてみました。

そうしたら大変おいしい、うまみもある。これはお腹の足しというよりは、単調な縄文生活の中で、だしを取るとか、味付けなどに使っていたのではないかと、言う点に注目をしてございまして、来月にあります、千葉湊「大漁まつり」に行つて、これを一般市民に提供してみようかというようなことを考えております。こちらには載せてはございませんが、それは、集客観光のイベントですが、縄文食に、もう一度

我々も焦点をあてて、広くこれをPRしていこうと、あるレストランで、「イボキサゴ」を使った、フルコース料理を先日、作って頂いて食べてみると、言う様なことを進めております。

今言ったような展開をもっともっと精力的に進めて行こうと思っております。

原田委員　もう一点お聞かせ願いますか。

特別史跡に向けて、加曽利貝塚の敷地内に代官屋敷がございますよね。代官屋敷については、あそこにそぐわない気が私はするんです。

「御茶屋御殿」を整備したり、掃除したりという活動をされている、一般のボランティアの方から聞いたところによりますと、旧四関さんの住宅をあそこに移築したいというような、そういう希望を、その方は持っていると言う事をちょっと小耳にはさんだんです。

今、加曽利貝塚にある代官屋敷、これは江戸中期のもので、確か300年くらい前の物ですよね。あれは「御成街道」の方へ持っていく方が、より相応しいのではないかと、時間的に1万年前、4・5千年前の物と300年前の物と一緒に同居しているのは、どう考えても不自然だし、これが特別史跡に仮になったときです。逆に負の遺産になってしまう気もするんです。その辺のところを考慮していただいて、向こうの方に移築して行くような、あそこを活用して一般市民の休憩所にするとか、考えていただけないのかと思うのですが。

西川委員長　お答えいただけますか。

志保澤課長補佐　委員が、おっしゃられたお話は、文化庁も同じようなご意見を持ってらして、出来るだけ時代考証に合わせた形で史跡の中を整備して頂きたいと、それについては、来年度以降きちっと史跡の保存管理計画を作り、しっかりやって下さいと、指導されています。現在、代官屋敷そのものは、小学生とかが、訪れたときに、雨だとか、お弁当が食べる場所がないという時に使ってもらっている、そうした意味合いもございまして、すぐ撤去ということをやってしまいますと、見学者が雨降った場合に逃げ場がないという状況がありますので、将来的に今おっしゃられたことは十分考えて行かなければならないと、特別史跡を申請するまでには、どうすべきかと考えて行かなくてはならない。と考えております。

原田委員　私も、文科省の知り合いから、そうゆう話を聞いたもんですから、いい機会なのかな、と言う気がするんですよ。

西川委員長　他にないでしょうか。

小松委員　去年は確か「駅からハイキング」があって、参加者が多かったと聞きましたが、ここにある夏休みの1400人の参加もずいぶん多いと思いますが、あのときも、それぐらいの大人の人たちの参加があったと聞いたんですけど、今年はおやりにならないのですか。

志保澤課長補佐　3月末に実施しましたが、25年度の話なので、ここには載ってないのですが、今年は天候があまりよくない日にぶつかってしましまして、千人まではいきませんでした。正しい数字はここにはないのですが、あれはモノレール、JRにご協力いただいて、散歩道として加曽利貝塚に訪れて頂こうとの企画でして、これからまた、モノ

ルール、JRからお話を頂ければ、今年度中にも実施できるのではないかなと思って
おります。

西川委員長 今のところ今年度の計画はないと。

志保澤課長補佐 まだ、そういうお話は何ってありません。

西川委員長 観光協会関連のお話なので是非、大事に。

もうちょっと、話を広げて、郷土博物館についても何かございますか。

私の方から、もうちょっと、特別史跡について、これからどうなっていくのか、
その辺をもう少しわかりやすく、話をして頂けたら。

飛田館長 特別史跡につきましては、全体の流れといたしまして、今年度を含めて3年間で
再整理を埋蔵文化財調査センターの方で実施をいたしまして、報告書を刊行し、申
請しようと考えておりましたところ、文化庁と詳しく協議をいたしましたところ、
今回、対象としていない所を合わせて整理をして、より充実したもので出された方
がよろしいということで、2年ほど先送りさせて頂くこととなりました。

その間、今回対象としていなかったものも含めて整理をする。ここにつきまして
国のほうの調査官の方も一緒に報告書を編集するなかに入って頂いて、話をさせて
頂いているところでございます。ですから、状況としては、本来よりは2年間先延
ばして、総括報告書という名前になりますが出す。併せて保存管理計画とい
うものをこの間、2年かけまして、その後の加曽利貝塚の維持管理も含めて、将
来性も含めて、まとめて報告書を出す。この2冊を刊行することを予定いたしてお
ります。そういった書物と、これまで言っておりましたよりも、時間が後ろに
2年ほどづれていきますので、併せてその中で、今後は今あります博物館が史跡内
に建っておりますので、そこを含めて、今後どういう風な形にしていくのか検討し
ようということ、進めて行くことになっております。

まだ、どこに何を作るとか、どのようなものを作るとか、決定はされておられま
せんが、そうした方向性で今のところ進んでおります。

西川委員長 その事も含めて青木委員、西本委員なにかございせんか。

青木委員 保存管理計画の中で、博物館等の外観施設も当然のことながら検討されるわけ
ですよね。従来あった、たしか加曽利貝塚の基本計画というか、ありましたよね。私
たちが学生のころから聞いていた話ですけど、そう行ったものと、今の学問的な背
景を取り入れた、新しい管理計画を作ると思うのですが、後、2年後にならないと
その姿は見えてこないと言う事ですね。

飛田館長 そうですね。今のところ、古い時代の加曽利や市内の史跡整備については、色々
と構想があったと思いますが、やはり古い時代の物でございますので、それを現
代的な、新たな見方で進んでいくと思います。

青木委員 私たちが知っているのは、あそこがあれだけ開発されていない時のものだから、
それは、管理計画の中で今の社会的状況を含めて検討されるのですから、その時
にお聞きするにしても、今年実施設計する、貝塚の断面の保存施設についても、耐震
補強の設計をするだけだと思うのですが、もう少し、ただ単に耐震補強だけではなく
て、外からの影響だとか、なるべく見に来る人が不快にならないような環境を耐
震に合わせて、その辺のところは当然、考えていると思うのですが、出来るだけそ

の辺のご配慮を頂ければありがたいなと思います。

飛田館長

特に先生には以前から集中して、ご協力いただいているところでございますので、答えを先に言われちゃったのですが、今回、耐震の方なのですが、躯体全体のことでなくて、難しいのですが、上に乗っかっております、波型の屋根は地震の時に外れるのではないかという、恐れがございますので、屋根が落ちないための工事を今、考えております。で、先生がおっしゃってる通り、住居跡観覧施設についても色々ご協力いただいて、除湿器を置いたり、クーラーの設置等、色々ご配慮賜っておりますが、そのところは今回入っておりませんが、ゆくゆくはあそこも古い施設ですので、そこも合わせて保存管理計画の中で、どうゆう姿がいいのか、考えて行かなくてはならないと。考えております。

青木委員

今回とりあえず補強の中で。

飛田館長

あの、本当に危険な状況に近いなと思っております。

青木委員

もう建築して50年以上ですから、いずれにしましても管理計画で相当見直されると思うのですが、その管理計画も僕らとしては、とても期待をしているので。

飛田館長

また、教えていただくことも多々ございますので、よろしく願いいたします。

西川委員長

非常に貴重な意見が次々と出ておりますのでしっかり検討して下さい。

他に何かありますか。

篠原委員

郷土博物館について伺いますが、今年度、新たに始めた事業はいくつかありますか。

湯浅館長

本年度、新たな連携事業をやっていないと、新たな集客を見込めないと言う事で、集客観光課の方で、「千葉あそび」ということで、何本か民間の事業者の方、あるいは、市の関係施設での事業を集めて実施しているのがございます。

郷土博物館では「城主体験」ということで、1日城主になって頂き、日曜日、全部で6回なんですけど、1日1組、こちらで着用体験などやっておりますので、鎧や兜を着て頂いて、そのあと通常の体験学習ですと、講座室で写真を撮って終了だったんですが、今回は、最初に3階の千葉氏のコーナーで解説ボランティアの方から、千葉氏について説明をして頂いて、そのあと、講座室で鎧に着替えて頂いて、5階の展望室で城主の感覚を味わって頂き、屋外で写真撮影をする事と、後、「いのはな亭」さんが公園敷地内にございますけど、千葉市の施設なのですが、そちらと連携しまして、ここでお団子を召し上がっていただき、終了という事業を新たに、始めさせて頂きました。現在、6日間、すべて定員は一杯でございます。

そういった事業を今年度、新たにさせて頂いております。後は、新たな事業ではないのですが、強化している事業として、お話しさせて頂きますと、連携事業が重要なものだと思っております。先ほど、小松委員さんの方から話がでました、「駅からハイキング」を今年も郷土博物館で実施させて頂きまして、こちらの方は、まちづくり推進課、集客観光課、千葉市観光協会さん等と連携しまして、6月28日に実施させて頂きました。当日はあまり天気がよくなく、入館者数は561人と言う事で、事業を実施させて頂きました。

後は、資料の提供等も、郷土博物館の知名度を高めるための、一つであろうと考えておまして、JRの千葉駅が、現在改修工事をいたしておりますけど、そこで

「写真展」を開催いたしておりまして、その中でこちらの方で提供した資料の写真を使って頂きまして、利用客に喜んで頂いている、というお話を伺っております。

後、昨年度と同様の連携事業につきましては、新たな事業はございませんが、今後も重視していきまして、入館者数もそういった連携事業による団体の利用客も増えておりますので、新しい事業を更に出来るように、進めて行きたいと思っております。

篠原委員

ありがとうございました。

特別史跡とか、千葉のいろいろな財産があるわけなんですけど、原田委員がさっきおっしゃってましたけど、そのことを、市民の皆様、あるいは小学生、これからの千葉の市民になる人たちにですね、もっともっとインプットする力というのが、私はやはり必要だと思います。

他の市と比べたことはないのですが、例えば人気のあるプログラムというのは、常設化できないのか、夏休みにできる教育普及事業って結構集中しておりますけど、例えば秋の気持ちよい時に、ここにきて何かできないのか、とか考えられることはまだまだいろいろあるのではと、僭越ながら拝見して思いました。

本当に特別史跡を狙うのであれば、2年間というものは頂けた猶予だと言う風に思われたうえで、せっかく「かそりーぬ」が出来てキャンペーンしてそれで終わりになってしまうので、それはどうなのかと思いますし、その2年を使って、どうやって、きちんと千葉の子どもがみんな「加曽利」と言えるようなことを、きちんと、目標を達成できるようにされた方が良いのではと思いました。

ついでに、「かそりーぬ」は、先週末でのNHKでのイベントにご招待させて頂いたのですが、残念ながらお出まし頂けなかった、「チーバくん」とか「ぼーとくん」とか、色々なゆるキャラが集まってきたのですが、「かそりーぬ」は私もちょっとだけ係ったものですから、職員たちもすごくかわいいと評判になっていたのですが、スタッフと一緒に投票したので、スタッフの意見も元に私は自分の1票入れたのですが、そういうこともあって、「かそりーぬ」来てくれたらいいよねーとみんな待っていたんですけど、残念ながらお越しいただけなかったのですが、もったいないと思うんですね、すごくお忙しいし、人数も少なく大変だとは思いますが、「かそりーぬ」のアレンジはこちらでも出来たということもお話していたはずでしたので、「チーバくん」のようにいろんなところに出て行って、もっともっとアピール出来たらいいのではないかと思います。

飛田館長

申し訳ございません。ありがとうございます。

西川委員長

「チーバくん」は活躍してるよ。地元の町内の新聞販売店のイベントにも来ていたりする。「かそりーぬ」も、ちょっとしたイベントなんかの出番をうまく使うといいんだよね。

小松委員

2～3日前に入っていた「千葉市政だより」ですが、「かそりーぬ」のコラムが出ていた。「かそりーぬ」が出てると、自分が係っているせいかもしれませんが、ちょっと、かわいいのが出てくると目に留まりますよね。とてもいいことだなと思います。

飛田館長

余談ではございますが、市の方でも封筒ですとか、いろいろなところに、これを

使ってPRしていこうとしているところです。

もう少ししたら、出てくると思いますが、我々も活動している範囲が狭いもので、
今後は更に広げていこうと思います。

西川委員長 次々にいいご意見がでてきましたので、一応時間も来ましたので、全体での
26年度の事業、27年度の要望なども含めて協議いたしました。

事務局 最後に事務局の方から、議題2のその他について何かあるのでしょうか。

特にございません。

西川委員長 以上で議事の方は終わりにしたいと思います。

それでは、事務局にお返しします。

最後に、湯浅館長の挨拶により、平成26年度「第1回千葉市立博物館協議会」を終了した。

問い合わせ先 千葉市教育委員会 生涯学習部

千葉市立郷土博物館

TEL 043-(222)-8231

FAX 043-(225)-7106

